

公益社団法人 NEXT VISION
2019 年度事業計画書
(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

1. 視覚障害者に対する直接支援事業（公益目的事業①）

（1）目的

眼科領域では、眼病患者や視覚障害者等の支援に向けて、医療と福祉（リハビリ等）の連携の必要性が議論されているが、未だ不十分な点が多いといわれている。例えば、失明・弱視等の患者に対する歩行訓練や社会福祉士によるリハビリサポートが受けられる福祉施設、点字図書館などは全国に存在するが、その多くは大型施設を設けるために都心部から離れていたり、暗いイメージがついてしまっている。また、医療機関で担当医から福祉施設を紹介されることは、患者にとっては「治療での回復はこれ以上見込めない」と言われているように感じられ、絶望感を与えててしまっている。結果として、多くの患者が福祉施設を紹介されても、諦めて引きこもってしまっていると言われている。

このような中、眼科領域における医療と福祉の連携に向けて、「ロービジョンケア」という概念が提唱されている。「ロービジョンケア」とは、視覚に障害があるため生活に何らかの支障をきたしている人（以下、「ロービジョン者」という）に対する医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的等すべての支援の総称である。関連学会等を通じてロービジョンケアに関する取組みが開始されつつあるところだが、実際に医療施設、福祉施設、訓練施設等の連携によりロービジョン者支援を実践できている例は少ない。

そこで、当法人においては、医療関係者のロービジョンケアに対する意識改革や、正しい情報発信等を行う取組みを通じて、ロービジョン者やその家族の精神的な負担軽減と社会復帰を支援するとともに、眼科領域における医療・福祉の実践的な連携強化に貢献していくことを目的としている。

（2）当事者向け講座、セミナー事業（新規事業）

（事業内容）

ロービジョン者を対象として、リハビリテーションや社会復帰に寄与するような有益な情報を提供するための講座やセミナー等を開催するほか、ロービジョン者に向けて日常生活に役立つ情報を発信する。

～講座、セミナーの実施例～

- ① タブレットPCやスマートフォンにおける視覚障害者用の基本操作、移動時の音声ガイド、文字拡大、色の音声化、物認識等の便利アプリの紹介
- ② 文字や画像の音声化機能や暗視機能等をもつスマートグラスや家電を操作できるスマートスピーカーの活用法の紹介
- ③ インターネットを介した音声ガイドによる日常生活や就学就労でのサポートを行うシステムの紹介

～日常生活に役立つ情報提供の具体例～

- ① 音声時計などの便利グッズの紹介
- ② お金の弁別について

(実施場所)

ビジョンパーク、大阪府・兵庫県等の貸会議室

(実施体制)

当法人職員及び外部招聘の専門家（支援機関等の業務委託先）による。

(実施回数、実施時期)

変更認定申請が承認され次第、直ちに実施する予定。月に2～4回。要望に応じて回数を増やしていくようとする。

(参加者数)

各回10～20名程度。

(参加費用)

原則無料

(参加申込方法)

ホームページや広報誌等で広く告知し、希望者が誰でも参加できるようにする。

(財源)

寄附金を財源とする。

(業務委託)

セミナー内容に応じてその分野の専門家（教育関係者等）を招聘する。

(3) 当事者向け体験事業（新規事業）

（事業内容）

ロービジョン者を対象として、スポーツや映画鑑賞など様々な文化体験をしてもらい、晴眼者と同じように趣味や生きがいを見つけて社会生活を楽しむ機会を設けることで、ロービジョン者の社会復帰、社会戦力化を支援する活動等を行う。

～文化体験の具体例～

- ① ボルダリング体験活動（フリークライミングやスポーツクライミングの一種で、最低限の道具（シューズとチョーク）で岩や石、人工の壁面などを登る）スポーツ
- ② スポーツ教室（ヨガ、体幹トレーニング、スポーツ吹き矢等）
- ③ 拡大読書器を用いた各種書籍の鑑賞体験
- ④ 文化体験（音声ガイド付き映画鑑賞会、朗読会等）

（実施場所）

ビジョンパーク

（実施体制）

ボルダリングは、専門家（NPO法人モンキーマジック）を配して安全性に万全を期すほか、その他スポーツ教室や文化体験もその分野の専門家（支援機関等の業務委託先）の指導を仰ぐ。

（実施回数、実施時期）

変更認定申請が承認され次第、直ちに実施する予定。

- ① ボルダリング（月 12 回程度）
- ② スポーツ教室（月 5 回程度）
- ③ 拡大読書器を用いた各種書籍の鑑賞体験（月 4 回程度）
- ④ 文化体験（月 4 回程度）

（参加者数）

- ① ボルダリング（各回30名程度）
- ② スポーツ教室（各回30名程度）
- ③ 拡大読書器を用いた各種書籍の鑑賞体験（制限なし）
- ④ 文化体験（各回20名程度）

(参加費用)

- ① ボルダリング (500円～2000円程度)
- ② スポーツ教室 (1000円程度)
- ③ 拡大読書器を用いた各種書籍の鑑賞体験 (原則無料)
- ④ 文化体験 (原則無料)

(参加申込方法)

ホームページや広報誌等で広く告知し、誰でも参加できるようにする。

(財源)

寄附金を財源とする。

(業務委託)

- ① ボルダリング (NPO 法人モンキーマジックに委託。スタッフが常駐し、指導と安全管理を行う。)
- ② スポーツ教室 (スタジオギフトハンズ、世界ゆるスポーツ協会などに委託。スタッフが派遣され、指導と安全管理を行う。)
- ③ 拡大読書器を用いた各種書籍の鑑賞体験 (システムギアビジョンなどに委託。スタッフが派遣され指導を行う。)
- ④ 文化体験 (関西音声サポートなどに委託。スタッフが派遣され、体験会を実施する。)

(4) カウンセリング事業 (①ロービジョンの集いは従来事業、②常設相談は新規事業)

(事業内容)

ロービジョン者的生活を多角的に支援するためロービジョン者を対象とした座談会、相談会を開催し、社会資源の活用方法や補助具等に関する各種情報提供、同じ症状に苦しむ患者同士のコミュニケーションの場の提供等に取り組む。

具体的には、従来より行ってきた、①「ロービジョンの集い」と名づけたイベントにおいて、眼科医、社会福祉士、心理カウンセラー等の医療、福祉、カウンセリングの専門家とロービジョン者が交流する座談会形式での情報交換や、専門家と個別に情報交換や相談等が実施できる場を提供するほか、新規事業として②「常設相談」を設け、個別の就労、生活、心理カウンセリング等、幅広い分野における相談を受け付ける場を常設する。

(注)①ロービジョンの集いの事業内容に関しては、有識者会議を開催し、当該会議の助言を受けるとともに、ロービジョン者の情報を有識者会議にフィードバックし、内容の充実・質の確保を図る。

【有識者会議の構成メンバー】

有識者会議は、

- 1) ロービジョン者又はその家族
- 2) 医療分野
- 3) 福祉関連分野
- 4) カウンセリング分野

の者で構成（理事会決定）することとし、当法人に対する本事業の助言（座談会等に参加する専門家の選定を含む。）等を行う。有識者会議の2019年2月現在のメンバーは以下のとおり。

[ロービジョン者又はその家族等]

- ・竹田幸代（当事者、消費生活アドバイザー）

[医療関連分野で識見を有する者]

- ・三宅養三（公益社団法人 NEXTVISION 代表理事、眼科医）
- ・高橋政代（理化学研究所網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー、眼科医）
- ・千田容子（視能訓練士）

[福祉関連分野において識見を有する者]

- ・原田敦史（歩行訓練士、社会福祉士）
- ・柳原嵩男（近畿大学理工学部 講師）

[カウンセリング分野において識見を有する者]

- ・山田千佳子（認定心理士、社会教育主事、社会福祉士）
- ・荒井優気（遺伝カウンセラー※）

※遺伝カウンセラー：患者や家族に適切な遺伝情報や社会の支援体制等を含むさまざまな情報提供を行い、心理的、社会的なサポートをおこなう。

(実施場所)

①ロービジョンの集い

関西一円で実施していく予定。将来的な実施については、全国規模での実施も視野に入れた検討を行う。

～過去の実施場所～

- ・兵庫県神戸市（ビジョンパーク等）
- ・大阪府大阪市（社会福祉法人日本ライトハウス）

②常設相談

ビジョンパーク

(実施体制)

①ロービジョンの集い

座談会及び個別情報交換会・相談会を行う。

～座談会～

有識者会議の助言を受けて選定された眼科医、社会福祉士、心理カウンセラー等の医療、福祉、カウンセリングの専門家とロービジョン者の方々が、相互に有益であると考えられる情報及び問題点に関する意見交換を行うとともに、専門家からアドバイスを行う。

～個別情報交換会・相談会～

専門家に対し個別に確認・アドバイスを受けたい内容について、マンツーマンで相談を受け付ける。

【座談会、個別情報交換会・相談会におけるコンテンツ例】

- 1) 白杖の使用感、歩行訓練ができる施設の紹介、種類の説明など
- 2) 盲導犬の紹介
- 3) 補助具（拡大読書器、ルーペ、音声パソコン、遮光眼鏡など）の紹介と使用にあたつてトレーニングができる施設の紹介
- 4) 利用できる社会資源（障害年金申請、障害者手帳取得、ガイドヘルパー制度）紹介
- 5) 眼球運動・固視訓練の紹介と訓練施設の紹介
- 6) 各種支援団体及び患者団体の紹介
- 7) 一般の病院眼科・医院から集い、開催の希望・相談があった場合の協力、開催に必要な支援（出張開催など）

②常設相談

○○したい、○○に困っている、○○について教えてほしい、といったロービジョン者の方々からの相談の内容に応じ、業務委託先の適切な専門機関（NPO法人神戸アイライト協会、国立神戸視力障害センター、神戸市立盲学校など）の専門家が個別に相談を受け付ける。

(実施回数)

① ロービジョンの集い

月 1 回程度開催

② 常設相談

月 100 件程度相談受付

(参加者数)

①ロービジョンの集い

1回当たりの参加者 10 名程度

②常設相談

月 100 人程度

(参加費用)

①ロービジョンの集い、②常設相談ともに原則無料

(参加申込方法)

①ロービジョンの集い

年間の実施予定日を公表し、随時開催概要をホームページを通じて広く告知し参加を募る。

②常設相談

常設相談の場を設けていることについてホームページを通じて広く告知する。

なお、各専門機関の専門家は毎日常駐するのではなく、スケジュールを決めて月 1 ~ 4 日程度の相談受付をするため、当該スケジュールについても告知する。

～現時点で想定している相談受付機関と相談内容、月毎の相談受付日数～

- ・NPO 法人神戸アイライト協会 就労・生活に関する相談 4 日程度
- ・国立神戸視力障害センター 就労・生活に関する相談 4 日程度
- ・神戸市立盲学校 就労・教育に関する相談 2 日程度
- ・社会福祉法人日本ライトハウス 就労・生活に関する相談 2 日程度
- ・日本盲人会連合 就労に関する相談 1 日程度
- ・日本網膜色素変性症協会 就労・生活に関する相談 4 日程度
- ・きららの会 就労・生活に関する相談 1 日程度
- ・兵庫県立視覚特別支援学校 教育に関する相談 2 日程度

(財源)

寄附金及び日本財団からの助成金

(業務委託)

ロービジョン者を支援する外部専門家、専門機関、支援団体（国立神戸視力障害センター、神戸市立盲学校、神戸アイライト協会、日本ライトハウス、日本盲人会連合、日本網膜色素変性症協会、きららの会等）

（5）当事者向け調査事業（新規事業）

（事業内容）

ロービジョン者及びその家族に対するアンケートを通じて、ロービジョン者等を取り巻く実態・現状や要望等について把握する。その分析結果は論文やホームページといったアウトプットを行うことにより問題提起し、最終的にはロービジョン者及びその家族の社会復帰・社会戦力化の一助とする。

○調査方法

アンケートは、ホームページ、Facebook や LINE などの SNS、患者団体や支援機関のマーリングリスト等を用いて、できるだけ多くの意見要望を取り上げることとする。

- ・実施スケジュール：4月～6月 アンケート内容・紙面準備
 - 7月～10月 アンケート調査実施
 - 11月～翌年2月 報告書まとめ
 - 3月 調査報告書公表（予定）
- ・実施方法：アンケート調査を実施。ウェブサイト、メール、郵送による回答の他、電話での聞き取り等の方法で行う。
 - ・実施対象：視覚障害者（全盲+ロービジョン）だけでなく、一般企業、医療関係者、行政関係者というグループごとに意識調査を行う。各グループで 100 名、計 400 名から回答を得ることを想定している。

○調査項目

アンケート調査項目の例示は以下のとおり。

- ・視覚障害や視覚障害者の生活実態及び学習、就業についてどの様な知識を持ち、どう考えているか。
- ・視覚障害者の就労についてどのように考えているか。
- ・視覚障害者の就労についてどのような要望を持っているか。
- ・一般の人、企業側は視覚障害に対してどのような認識を持っているか。
- ・一般の人、企業側は視覚障害者の就労に対してどのような意識を持っているか。

（調査結果の考察とこれを踏まえた提言）

- ・調査結果を踏まえ、ロービジョン者の生活の質の向上及び学習、就労を困難にしている原因を考察するとともに、これを踏まえ、提言すべき事項を検討し、論文、ホームページで公表する。

(実施体制)

当法人職員が実施する。

(実施回数、実施時期)

変更認定申請が承認され準備でき次第実施する予定。年に1回程度。

(財源)

寄附金を財源とする。

(業務委託)

患者会、関係者ML、兵庫県眼科医会等を通じて実施協力者を募集するほか、HPや掲示板で実施協力を依頼する。

(6) 研究開発事業（新規事業）

(事業内容)

情報化社会が進む中でロービジョン者の生活・就労支援に寄与する最新テクノロジーに関する研究開発を行い、その成果を社会還元することにより、ロービジョン者の社会復帰・社会戦力化支援に資することを目的とする。

～研究開発事業の具体例～

- ① ロービジョン者の運転に対する自動運転自動ブレーキの事故防止効果の研究
ロービジョン者の運転が安全になることで公共交通機関だけに頼らない移動手段を獲得でき、就労、就学の機会増につながる。
- ② 電子式歩行補助具の開発
単独歩行中の安全確保により駅ホームや階段・段差などの転倒・転落の減少につながる。
- ③ 遮光眼鏡適合判定及び有用性評価に関する研究
羞明の減少など見え方の質の改善に有効となる。
- ④ 視覚障害者の移動支援に関する研究
ナビゲーションシステムや音声案内等により視覚障害者の通勤、通学など外出時の安全確保につながる

⑤ 視覚障害者情報収集・提供に関する研究

視覚障害者に必要な情報を適時収集でき、自ら情報発信する技術を得ることで、生活の質の向上につながる。

⑥ 就労支援に関する研究

支援する情報・ツールの提供により、視覚障害者の雇用率のアップ、職域の開拓につながる。

⑦ 視覚障害者に対する配慮のあり方をシミュレートする VR ソフトの開発支援

一般の方には理解が難しい視覚障害者の見え方（視力・視野・見え方の質）を可視化することで視覚障害者の理解につながる。

（実施体制）

それぞれの企業や団体が有する技術、専門知識の提供を受け、ロービジョン者の生活支援・就労支援に寄与するテクノロジーの共同開発を行う。

① ロービジョン者の運転に対する自動運転自動ブレーキの事故防止効果の研究

理化学研究所、神戸アイセンター病院、東北大学、筑波大学、本田技研工業株式会社、名古屋大学等複数機関による共同研究に認定を受けたのちに検討の上、参画する予定である。

② 電子式歩行補助具の開発

九州工業大学との共同研究を実施する。

③ 遮光眼鏡適合判定及び有用性評価に関する研究

東海光学株式会社、神戸アイセンター病院、新潟大学、大阪大学、慈恵医科大学、獨協医科大学病院等との共同研究を実施する。

④ 視覚障害者の移動支援に関する研究

オリィ研究所、TOA 株式会社との共同研究を実施する。

⑤ 視覚障害者情報収集・提供に関する研究

日本電信電話株式会社、株式会社 OtonGlass 等との共同研究を実施する。

⑥ 就労支援に関する研究

神戸市立盲学校、株式会社資生堂、立命館大学等との共同研究を実施する。

⑦ 視覚障害者に対する配慮のあり方をシミュレートする VR ソフトの開発支援

株式会社シルバーウッド等との共同研究を実施する。

（実施回数、実施時期）

変更認定申請が承認され次第実施する予定。

直ちに実施する研究開発は以下のとおりであり、今後も適宜研究開発を追加して実施する。

- ① ロービジョン者の運転に対する自動運転自動ブレーキの事故防止効果の研究
・・・2019年～2024年
- ② 電子式歩行補助具の開発・・・2019年～2020年
- ③ 遮光眼鏡適合判定及び有用性評価に関する研究・・・2018年～2019年
- ④ 視覚障害者の移動支援に関する研究・・・2019年～2024年
- ⑤ 視覚障害者の情報収集・提供に関する研究・・・2019年～2021年
- ⑥ 就労支援に関する研究・・・2019年～2022年
- ⑦ 視覚障害者に対する配慮のあり方をシミュレートするVRソフトの開発支援
・・・2019年～2022年

(財源)

寄附金及び補助金を財源とする。

(業務委託)

以下の共同研究機関にそれぞれ専門分野の業務を委託する。

- ① ロービジョン者の運転に対する自動運転自動ブレーキの事故防止効果の研究
理化学研究所：運転支援システム利用による安全性を証明する方法論の確立
神戸アイセンター病院：健常者と同程度に事故回避できる、障害物認識と回避に関する支援条件の明確化のための予備検証
東北大学：視野障害者・健常者運転データ収集によるデータベース構築
筑波大学：健常者と同程度に事故回避できる、障害物認識と回避に関する支援条件の明確化のための予備検証
本田技研工業株式会社：Hondaセーフティナビをベースにした視野障害者の運転能力評価用ドライビングシミュレータ
(眼科用Hondaセーフティナビ（Sナビ）)開発
名古屋大学：視野障害に特化した運転支援機能提示のためのドライビングシミュレータ改修
- ② 電子式歩行補助具の開発
九州工業大学：視覚障害者の転落事故低減を目的とする電子歩行補助具の路面環境情報伝達法の開発
- ③ 遮光眼鏡適合判定及び有用性評価に関する研究
東海光学株式会社：視覚ダイナミックレンジテストの有効性評価に必要となるデータ採取用デバイスの開発
神戸アイセンター病院：視覚ダイナミックレンジテストの有効性を確認するための

データ取得

新潟大学：視覚ダイナミックレンジテストの有効性を確認するためのデータ取得
大阪大学：視覚ダイナミックレンジテストの有効性を確認するためのデータ取得
慈恵医科大学：視覚ダイナミックレンジテストの有効性を確認するためのデータ取得
獨協医科大学病院：視覚ダイナミックレンジテストの有効性を確認するためのデータ
取得

- ④ 視覚障害者の移動支援に関する研究
オリィ研究所：デジタル通信デバイスNINNINの開発
TOA株式会社：白杖誘導システムの開発
- ⑤ 視覚障害者の情報収集・提供に関する研究
日本電信電話株式会社：タブレットおよびインターネットを用いた大規模視力測定
法の開発
株式会社0tonGlass：デジタル音声読書器の開発
- ⑥ 就労支援に関する研究
神戸市立盲学校：HapLog親指センサーの開発に必要となるデータ集積
株式会社資生堂：HapLog親指センサーの開発
立命館大学：眼疾患スクリーニングのための錯視画像の製作・展示等
- ⑦ 視覚障害者に対する配慮のあり方をシミュレートするVRソフトの開発支援
株式会社シルバーウッド：VRソフトの開発

(知的財産権について)

業務委託・共同研究のいずれにおいても知的財産が発生する可能性がある。さらに、研究開始後に想定していなかった知財が産出される場合があり、その場合は双方協議の上で帰属先を決定する。

2. 障害者に対する間接支援事業（公益目的事業②）

（1）目的

障害者に対する直接支援事業と同じ趣旨で実施する。

（2）コンテスト事業（従来事業）

（事業内容）

ロービジョン者の社会復帰を広く促進していくためには、ロービジョン者とそれを受け入れる社会の双方が、多くのロービジョン者が社会に復帰し、活躍している事実を知ることが第一歩と考えている。そのために、ロービジョン者の活躍事例を集め、コンテストを開催し、活躍事例の発表、評価を行い、特に優れた事例を選出する。

具体的には、ロービジョン者の雇用および起業による活躍事例を、ロービジョン者、雇用者、医療機関、福祉施設等から発表してもらい、特に広く社会に認知させるべき事例を選出する。また、選出された事例は、ホームページや研究報告書で情報発信する。

～活躍事例～

- ・消防署勤務
- ・眼科専門病院で外来患者に向けた IT サポート業務
- ・障害者支援施設での指導員
- ・経営コンサルティング
- ・在宅、高齢者施設での訪問美容サービス
- ・経済誌のインタビュー収録、執筆、編集
- ・海外での日本人留学生の寮の経営
- ・IT 関連企業でのシステム開発
- ・iPhone、iPad を使ったプライベートレッスン

(募集方法)

ホームページや法人パンフレットで、目的、内容、募集方法について広く周知する。

(選考方法)

医療、福祉、カウンセリングの各分野についての識見を有する専門家とロービジョン者等から構成される有識者会議を理事会決定の上設け、選考にあたる。

(実施時期)

第4回 応募期間：2019年7月～10月

発表式：2020年2月（予定） 神戸アイセンター ビジョンパーク

(財源)

寄附金を財源とする。

コンテスト事業（アイデア）の成果として「サンキューカード」を配布する事業を行っているが、コンテストと同じく日本財団の助成金で実施している。

(業務委託)

法人パンフレットの製作、及びホームページの制作を機関決定の上、専門機関に委託する。

（3）講演、セミナー事業（新規事業）

(事業内容)

患者団体、自治体、企業、大学等の団体からの依頼を受け、ロービジョン者の支援者や一般の方々を対象としたロービジョン者の支援実例とその方法を広く認知させるための講演会やセミナーを実施する。また、当法人の企画で、ビジョンパーク等において、同趣旨の講演会等を行う。講演内容としては、支援に対するビジョンの提示だけでなく、例えば、拡大読書器を職場に導入したことでの就労継続が可能になったというような社会復帰の事例を盛り込んで紹介する。そして、これらの講演会やセミナーを通じ、ロービジョン者の現場を世の中に広く認知させる。

- ① 兵庫県ロービジョン講習会（他団体から依頼を受けて実施）
- ② ロービジョンケア講演会（他団体から依頼を受けて実施）
- ③ 就労支援フォーラム（当法人が企画して実施）

(実施場所)

- ① 兵庫県ロービジョン講習会： 臨床研究情報センター（神戸市中央区）
- ② ロービジョンケア講演会：依頼者の都合によるため場所未定
- ③ 就労支援フォーラム：ビジョンパーク

(実施体制)

当法人職員（当法人に所属している眼科医等の専門家）、または、外部講師を招聘して行う。

- ① 兵庫県ロービジョン講習会： 当法人職員及び外部講師招聘
- ② ロービジョンケア講演会：当法人職員
- ③ 就労支援フォーラム：当法人職員及び外部講師を招聘

(実施回数、実施時期)

変更認定申請が承認され次第実施する予定。

- ① 兵庫県ロービジョン講習会： 年 3～4 回程度
- ② ロービジョンケア講演会：年間 26 回程度
- ③ 就労支援フォーラム：年 1～2 回程度

(参加者数)

- ① 兵庫県ロービジョン講習会： 各回 100 名程度
- ② ロービジョンケア講演会：主催者により異なるが 50～200 名程度
- ③ 就労支援フォーラム：各回 50 名程度

(参加費用)

無料、もしくは、収支相償を満たす範囲内で参加者意識を促すよう安価なセミナー参加費

500円程度。

- ① 兵庫県ロービジョン講習会： 参加費 1000円程度
- ② ロービジョンケア講演会：主催者により異なる
- ③ 就労支援フォーラム：原則無料

(参加申込方法)

HP、広報誌等で告知し、メールおよび電話での参加を受付ける。

- ① 兵庫県ロービジョン講習会： FAX、ML、HP等で告知し、FAX、メールおよび電話での参加受付
- ② ロービジョンケア講演会：主催者により異なる。
- ③ 就労支援フォーラム：HP、広報誌等で告知し、メールおよび電話での参加受付

(財源)

寄附金及び参加費収入を財源とする。

(業務委託)

各団体に委託する業務は以下の通りである。

- ① 兵庫県ロービジョン講習会： FAX、ML、HP等で告知し、FAX、メールおよび電話での参加受付業務等。
- ② ロービジョンケア講演会：主催者により委託する業務は異なる。

(4) 晴眼者向け体験事業（新規事業）

(事業内容)

晴眼者を対象とした様々なロービジョン者の困り方を体験できる場の提供。

自動車の運転は、ときにロービジョン者にとっても生活に不可欠となる。軽度のロービジョンであれば、一定の条件をクリアさえすれば、自動車の運転ができるにもかかわらず、社会的にこのことは認知されていない。そこで、自動車の運転をテーマに、ロービジョン者や視野欠損者が運転の際に見えている世界を、アイトラッキング技術を用いてシミュレーションし、晴眼者に彼らの見え方からくる困り方を体験してもらう。対象は、運転免許保持者だけでなく、子供にも体験してもらいながら安全な運転や交通ルールを体感しながら学んでもらう。また、本事業では、アイトラッキングを使用して、自動車運転中の視野を推測し、視野欠損などのロービジョン者をスクリーニングすることも可能である。

(実施場所)

ビジョンパーク

(実施体制)

ビジョンパークにドライビングシミュレータ（本田技研工業（株）開発）及び東北大学等のアカデミアのシミュレーションデータなどを活用し、当法人職員が実施する。また、開催については誰でも参加できるようにHPで告知するとともに、神戸アイセンター・ビジョンパーク来場者は当日申し込みも可能とする。

(実施回数、実施時期)

変更認定申請が承認され次第、直ちに実施する。

ビジョンパーク開場時は毎日開催

(参加者数)

一般市民、マスメディア、神戸アイセンター・ビジョンパーク来場者から数百人/月

(参加費用)

無料、もしくは、収支相償を満たす範囲内で参加者意識を促すよう500円程度の安価な体験料金

(参加申込方法)

ホームページや広報誌等で告知し、メールおよび電話での参加受付

(財源)

寄附金を財源とする。

(業務委託)

ドライビングシミュレータを本田技研工業（株）より無償で提供いただく。

(5) 出版事業（新規事業）

(事業内容)

軽度なロービジョン者や就労中に健康診断で治療困難な進行性疾患であることを診断された方、また診断に至らずとも疾患のある方にとって、病名告知が失明告知に匹敵するショックを本人に与える場合や、初期のロービジョンの段階でエイドや工夫があることを知らずに過度な苦労をされることが多いため就労継続が困難になる場合がある。

このような場合の対処法について、機能改善と環境整備の両面から事例の紹介や適切な情報提供を行う観点から書籍を執筆し、全国の書店に設置・販売し、広く認知と啓発を行う。

書籍の価格は、収支相償を満たす範囲内の金額とする。

(出版冊子例)

- ・見えるのが当たり前のあなたへ

(実施場所)

出版社を通じて全国の書店での設置・販売を行う。

(実施回数、実施時期)

変更認定申請が承認され次第実施する予定。

(向こう 10 年間で 5 種類、 5 万冊程度。)

(財源)

寄附金を財源とする

(業務委託)

専門家の言葉をわかりやすく一般の人に伝えるため専門家（プロのライター）に執筆を依頼し、全国の書店での設置・販売を行うために出版社へ書籍の販売委託を行う。